名古屋市立大学
大学院医学研究科・医学部 広報誌

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2017.1. VOL.32

contents

極 研究&教育 Current topics in research and education
人 時の人 People in the news
技 最新医療の紹介 Latest developments on the medical front
和 お知らせ Information

課題解決型高度医療人養成事業「慢性の痛みに関する領域」の採択について プロジェクトリーダーからのご挨拶

このたび文部科学省の大学教育再生戦略推進費・課題解決型高度医療人養成事業「慢性の痛みに関する領域」が採択されました。

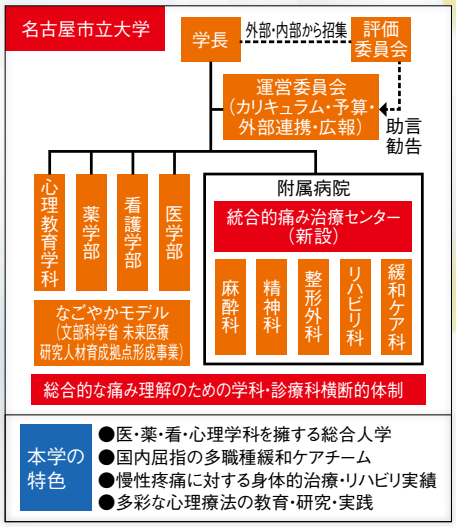
本事業は、医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療を提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成することを目的としています。今回、慢性の痛みを対象とした公募が行われ、本学の「慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成」プログラムが採択されました。本年度から5年間にわたり事業を推進してまいります。

本事業では、慢性疼痛に大きな影響を与える心理社会的側面に焦点をあて、多職種アプローチと精神心理的アプローチを2本の柱とした、我が国では他に類を見ない体系的な人材育成プログラムを編成しました。これは、医・薬・看に加え人文社会学部を併せ持つ名市大の総合大学としての特徴を最大限活かすことのできる事業です。学長の命のもと、大学の総力をあげて取り組んでまいりたいと思います。また、これらを実施するために、国立がん研究センター、獨協医科大学、京都大学、慶応大学、同志社大学、名古屋経済大学の各領域の専門家の先生方にもご協力いただきます。

慢性疼痛の理解には、生物学的なメカニズムのみならず、人の精神・心理や行動などを包括した領域の理解が必要ですので、医学部としては本カリキュラムを国際認証でも求められている行動科学分野のカリキュラムとして位置づける予定です。

臨床教育の場として名市大病院にも協力を仰ぎ、「いたみセンター」を設立していただきました。病院においては、臨床を通して、慢性疼痛の心理社会的側面の重要性を学ぶプログラムを実践してまいります。

慢性疼痛で苦しむ方はとても多く、大きな問題点となっています。今後、本事業を通して、複雑な慢性疼痛を理解し、適切な医療を提供できる医療人の養成を通して、医学、医療の発展に貢献したいと考えております。どうかみなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



文責: 名古屋市立大学大学院医学研究科　精神・認知・行動医学分野　教授
名古屋市立大学病院　こころの医療センター、緩和ケア部　部長
明智 龍男

“瑞医の由来”

『瑞医（ずいい）』という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port（港・空港）」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

01 研究&教育
Current topics in research and education

連携病院

連携病院―社会医療法人宏潤会 大同病院

●地域の小児医療のあらゆるニーズに応える　●若い小児科医を育てる

大同病院は名古屋市南区にある404床の急性期病院です。東海市に近いために知多半島地域からも多くの患者さんが来院します。現在は14名の小児科医が年間3000名近い入院患者（おそらく愛知県内で最も多い）の診療を行っています。地域の小児医療の中で不足していると思われる分野　たとえば24時間いつでも受け入れる救急体制、重症心身障害児の在宅医療支援、発達障害児療育などを地域の開業医の先生方や様々な施設と連携して行ってきました。

小児救急とNICU

毎日小児科医が当直し、救急車を含めてあらゆる患者を受け入れます。「すべて受け入れる」体制により重症の子どもたちが迷わず受診し、開業医の先生方からの「少し心配な子」の紹介が適切な治療につなげることができていると考えます。新生児医療についても近隣のNICUが満床で受け入れられない状況を少しでも改善するために昨年から当院でもNICUを開設しました。院内出生のみならず他の産院で出生した赤ちゃんも24時間体制で搬送します。

重症心身障害児の在宅医療支援

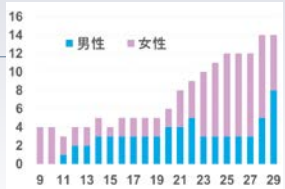
NICUなどから人工呼吸器をつけた状態で退院し　在宅療養を行う児が増えてきました。在宅医療を支えるためには地域の基幹病院が中心となって福祉と連携したサポートチームを作り　急変時にはいつでも対応できる体制が必要です。私たちは他施設からも多くの子どもたちを受け入れて在宅医療支援をおこなっています。救急や重症心身障害児を診ることは小児科医としての実力をつけるために重要だと考えています。

人材育成

私が平成2年に大同病院に赴任した時、小児科医は2名でした。平成20年ころから女性医師支援を積極的に行い、自分たちが働きやすい勤務体制にしたこともあり医局からの派遣ではなく多くの若い医師が集まるようになりました（グラフ1）。日々の診療から多くのスタンダードを学び　専門医を取得した後は個々の希望も考慮しながら他施設への短期留学制度なども利用して　より専門的な医療を学ぶ機会を設けています。若い医師のみならず小児医療に関わる全ての職種のチーム力で医療の質を上げていきたいと思います。

地域の基幹病院が中心になることで医療のみならず福祉、教育など子ども達に必要な事が動きます。これからも名古屋市立大学やあいち小児保健医療センターなど専門施設と連携して地域の医療を支えてきたいと思います。

大同病院　副院長・主任部長　水野 美穂子



グラフ1　大同病院小児科の医師数

小児科診療の様子

NICU

病院外観

教　育

先端医療技術イノベーションセンター開設のお知らせ

平成27年度の医療介護総合確保法に基づく愛知県の計画により支援いただきました先端医療技術イノベーションセンターが完成し、平成29年1月12日に内覧会を開催致しました。

本施設は、腹腔鏡や内視鏡等を用いた高度な手術手技の修練（サージカルトレーニング）を目的とした施設です。本学では、平成27年度より厚生労働省の実践的な手術手技向上研修事業の指定をうけ、研修を実施してきましたが、国内最大級の専用施設が完成し、学内だけでなく、外部からの研修も受け入れる体制が整いました。

このような手術手技研修が行えるのは、不老会の会員の皆様の尊いお志とご遺族のご理解があってのものであり、私どもは、そのお気持ちを真摯に受け止め、各自がさらなる研鑽に励むとともに、次の世代を担う外科系医師の育成にいっそうの努力をいたす所存です。

開設にあたり、多くのご支援、ご寄付を賜りましたことに御礼申し上げます。今後もお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

医学研究科長　浅井 清文

先端医療技術イノベーションセンター

内覧会での様子

●場所をとっているのは息子の積みプラモです!
決して私の積読ではありません。（事務職員　女性）

整形外科学分野

大塚隆信教授が学会長として開催した
第27回日本整形外科学会基礎学術集会での
教室員の集合写真

整形外科教室は開講当初から同門会員・医局員の『和』を大切にした教室運営を行っており、診療においては腫瘍班、関節班、脊椎班、小児班、手外科班に分かれて、それぞれの専門医が最先端の医療を行っております。

本教室の大きな特徴として、(1)大学病院および豊富な研修関連病院での充実した研修、(2)大学院進学、国内留学、海外留学など自由で活発な研究活動が挙げられます。

特に研究活動には積極的に取り組んでおり、大学基礎講座では分子神経生物学教室で『関節リウマチの病因、病態に関する研究』、細胞分子生物学教室で『リウマチの遺伝子制御に関する研究』、再生医学教室で『リハビリテーションによる神経再生と星状細胞の機能に関する研究』を行っており、国内留学においては、岐阜大学薬理病態学教室での『骨芽細胞のシグナル伝達に関する研究』や京都大学iPS細胞研究所での基礎研究にも参加しております。また海外留学・研修においては、ニューヨーク大学とピッツバーグ大学医療センターでのM6の選択制実習をはじめとして、カリフォルニア大学、コロラド大学、テネシー大学、ドレクセル大学、ニューヨーク大学、ハワイ大学、ピッツバーグ大学、ラトガース大学、ヨーテボリ大学などで海外留学した教室員は過去10年間で24名にのぼります。

このような豊富な研究活動を診療や教育の現場にフィードバックすることで、世界に誇れる教室を目指しております。

文責　整形外科　医局長　若林 健二郎

機能組織学分野

研究室メンバー
前列左から、植田(准教授)、鵜川(教授)、熊本(講師)
後列左から、田中(技術員)、星川(大学院生)、柴田(助教)、梶田(技術員)

生体機能・構造医学専攻　基礎医科学講座　機能組織学分野は、平成12年2月より、私が教室を主宰しています。大学院の組織改編に伴い、解剖学第2講座から機能組織学分野へと改称されました。学部教育では、組織学・発生学・神経解剖学の講義、組織学実習・肉眼解剖学実習の一部を担当しています。

研究面では、神経系に発現するイオンチャネルやG蛋白質共役型受容体にスポットを当て、それらの生理的役割を調べています。研究スタイルは、「新規遺伝子の単離・同定→全身における分布と細胞内局在の解析→強制発現系を用いた機能解析→遺伝子改変動物を用いた表現型解析」というオーソドックスなものですが、できる限り新しい手法を導入するように心がけています。具体的には、中枢神経系に広く発現する新規リーク型イオンチャネルの機能解析、海馬新生神経の成熟に関与するイオンチャネル分子の同定、聴覚・平衡覚・味覚受容体の探索を行っています。その他、心臓、消化管、膀胱などに発現するイオンチャネルの解析も行っています。

分野を問わず、国家レベルで基礎研究が軽視されている昨今ですが、橋渡し研究(応用研究)の礎となるべき基礎医学研究の重要性は不変です。少人数の教室ですが、オリジナリティーの高い研究成果を挙げ、本学に新しい研究の柱を作りたいと考えています。最後になりましたが、瑞友会の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

文責　機能組織学　教授　鵜川 眞也

Humanity

02 時の人 People in the news

新任教授紹介

病態モデル医学分野―　大石 久史　教授

大石 久史　教授

平成28年11月1日付で、病態モデル医学分野教授、実験動物研究教育センター長を拝命致しました。謹んでご挨拶申し上げます。私は、平成8年に愛媛大学を卒業して整形外科研修を行いました。その後大学院に進学して、病理学の能勢眞人先生の下、モデル動物を用いた研究をスタートさせました。修了後は、主に筑波大学生命科学動物資源センターの高橋智先生の下で、遺伝子改変マウスの作製およびその表現系解析を中心に、研究・教育に従事してまいりました。

研究は、「膵内分泌細胞分化に関わる転写因子」と「疾患モデルにおける多因子疾患の遺伝的基盤」の解明を行なっており、近い将来、研究成果がヒト疾患の病態の更なる理解と新たな医療の進歩に貢献できればと考えています。さらに、発生工学やゲノム編集技術の進歩によって、これまで以上に簡便に *in vivo* で遺伝子改変が行えるようになりました。実験動物教育研究センターの適切な運営とこれらの技術支援を通じて、大学全体の利用者皆様の研究・教育にお役に立てればと考えております。

伝統ある本学の更なる発展に、微力ながら全力を尽くす所存です。今後とも、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

活動報告

耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野―　村上 信五　教授

第117回　日本耳鼻咽喉科学会総会（平成28年5月 於:名古屋国際会議場）

昨年10月、日本耳科学会の理事長に就任しました。耳科学会は日本耳鼻咽喉科学会に次いで大きい学会で、会員数は約3,000名です。言葉を聞いて覚え、会話できること、当たり前のようですが、実は素晴らしい機能で耳がなければ音楽を楽しむこともできません。日本耳科学会は聞こえの研究と臨床を担う学会ですが、私の専門とする顔面神経麻痺や聴神経腫瘍も含まれます。私は1996年に原因不明のBell麻痺の主病因が単純ヘルペスウイルスであることを発表し、その後も薬物治療や手術治療の研究を続けてきました。聴神経腫瘍も700例を越え、国内有数の施設になっています。これらの成果が認められ一昨年の日本耳鼻咽喉科学会総会で、「宿題報告」という栄誉ある発表の機会をいただき、昨年は第117回　日本耳鼻咽喉科学会総会を名古屋国際会議場で開催しました。名市大の学生も百数十名が参加し、実りある楽しい学会になりました。宿題報告や総会開催ができたことは、教室の総力であり耳鼻咽喉科同門の先生方にも多大なご支援を賜りましたことを改めて御礼申し上げます。

村上 信五　教授

平成10年に耳鼻咽喉科学講座の教授を拝命し18年経ちました。もう少し名市大の発展に貢献できればと思っていますので、皆さま、今後ともよろしくお願い申し上げます。

02 時の人 People in the news

名市大発・出張講座

産科婦人科学分野―　尾崎 康彦　病院教授

学びなおし講座 in 帯広 ―北の国から2016年・夏―

2016年夏、例年なら爽やかな夏を迎え心地よい北海道…のはずが高湿度・高温注意報が発令した蒸暑い北海道。JRが全便運休するというハプニング発生のなか、7月30日北海道十勝帯広市で名古屋市立大学病院の尾崎康彦先生を講師にお招きし、名市大医療・保健学びなおし講座出張授業「Birt Tour 2016 in 帯広―安全なお産をめぐる冒険―」が北海道十勝支部助産師職能主催で開催されました。受講生は十勝管内の助産師だけでなく、松前・砂川・札幌・釧路の助産師や医師らが全道各地から集結しました。オープニングからランチョンセミナーまで、盛りだくさんで充実した内容と尾崎先生の熱い講義と尾崎節に魅了され、時間を忘れて夢中で学び気づけばクロージング。あっという間の一日でした。受講生の満足度も高く全員が受講後満足度5、学びなおし講座すべての講義を受けたい、再度開催希望などの声も聞かれています。尾崎先生、受講生一同は北海道で安全なお産の冒険を続けることをお約束します。「十勝の助産師に学ぶ機会を作りたい」という私のつぶやきに、「いい案があるよ!」との尾崎先生の一言でこの出張授業プロジェクトが実現しました。尾崎先生をはじめ、この講座を開催するに際しご協力をいただきました関係各位の皆様に心から深く感謝いたします。ありがとうございました。

JA北海道厚生連帯広厚生病院　助産師　三守 由記（サインはV!）

若手期待の星★

平成28年度名古屋市立大学学長表彰　受賞報告

前列左:内木先生、前列左から2番目:岡田先生

腎・泌尿器科学分野　岡田 淳志 先生

このたび平成28年度学長表彰を拝受いたしました。私は平成10年に本学を卒業し、泌尿器科医として尿路結石の研究とロボット・腹腔鏡手術に取り組ませて頂いております。そのような中、母校からこのような栄誉な賞を頂きましたことは、光栄の極みであり、また大変な励みとなりました。

今後も臨床医・研究者・教育者として、高いレベルの診療、患者様の健康に真に役立つ研究、世界に羽ばたく医師の育成に尽力することで、本学のさらなる発展に貢献したいと強く思います。

実験病態病理学分野　内木 綾 先生

この度は学長表彰を賜り、大変光栄に存じます。私の研究分野は、疾患モデル動物の作製やその実験病理学的解析によるがん進展や予防機序の解明であり、特に慢性肝障害による肝発がんに注力しています。また臨床面では、既存の知識に研究室内外の最新知見を取り入れることにより、正確な病理診断に努めています。これまで導いて下さった皆様に深く御礼申し上げるとともに、母校の発展に貢献できるよう今後も一層励みたいと思います。

03 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

総合周産期母子医療センター〈新生児（NICU）部門〉

分べん成育先端医療センター新生児部門は、新生児医療を行う専門病棟です。名古屋市立大学病院における新生児医療の歴史は古く、1950年代に大学病院で初めて新生児治療室が設置され、それ以来、この分野におけるパイオニアとして、数々の治療の開発に関わるとともに、この分野を第一線でリードする臨床医や研究者たちを数多く輩出してきました。これら先人たちの活躍を礎にして、2004年10月に分べん成育先端医療センターに発展し、産科部門とともに、一層機能の拡充が図られるようになりました。

分べん成育先端医療センター新生児部門では産科部門と連携し、胎児期から新生児までのあらゆる疾患に対応しています。わずか数百グラムで出生した超早産児、一酸化窒素吸入療法や脳低温療法などの特殊な治療を必要とする新生児特有の疾患に加え、小児・新生児分野に対応可能な科が集約しているという大学病院の特徴を生かし、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、整形外科、耳鼻咽喉科、麻酔科などの複数診療科にまたがる疾患に対しても適切な医療を提供できる体制を整えています。また、臨床遺伝診療部とも連携を行い、個々の御家族に応じた遺伝カウンセリングも実施しています。このように各科が協力し、地域に密着した新生児センターとして、近隣の先生方からの母体搬送や新生児搬送をいつでも受け入れることが可能になっています。

状況に応じてヘリコプターを利用した搬送を行う場合もあります。

NICUでは後遺症なき生存を目指し「赤ちゃんに優しい」対応を心がけています。

NICUでは医師や看護師、ソーシャルワーカーや臨床心理士、薬剤師など様々な職種が連携して赤ちゃんと家族をサポートしてくために合同でカンファレンスを行っています。

さらに、我々が医療を提供するのみでなく、赤ちゃんの御家族のみなさんにも様々なケアに関わっていただき、赤ちゃんを支えていただくような家族中心のケア（ファミリーセンタードケア）も行っています。仮に入院中であっても、赤ちゃんが大切な家族の一員として迎えられるよう、医師、看護師、助産師に加え、薬剤師、臨床心理士、理学療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー等でチームとなって情報交換を行いつつ、総合的に家族の皆様をサポートする体制を整えています。病棟では、音響、明度などに配慮し、胎児環境に近い状況にすることで外的ストレスを最小限にし、赤ちゃんの成長や発達を促していくことを目的としたケア（ディベロップメンタルケア）も導入しています。また退院後に地域の医師や訪問看護ステーション、訪問理学療法等のスムーズな移行を心がけ、赤ちゃんと御家族が安心して過ごせるような体制を作るよう心がけています。

当院は2012年に愛知県地域周産期母子医療センターに、また2015年には愛知県総合周産期母子医療センターの認定を受けました。これまで以上に赤ちゃんと御家族の皆様を総合的にサポートできるような体制を整えていき、地域の周産期医療を支える役割を担っていきたいと考えています。

文責　小児・新生児医学　加藤 丈典

●知らないうちに桜山の喫茶ボンボンがなくなってた。ショック。
あのずっしりと重いケーキが今すぐ食べたい。（事務職員　女性）

04 お知らせ Information

学生生活

医学部2年生の学生生活を紹介します!

クラスメイト

2年生では生化学、生理学、解剖学、免疫学といった基礎医学を学びます。講義では始めて見聞する内容ばかりで四苦八苦することもありますが、年間10以上の試験を乗り越えるために周囲の仲間と助け合いながら勉学に励んでいます。2年生で行う実習の中でも、解剖実習はご献体を自らの手で解剖させていただく貴重な機会であり、知識や経験を得るだけでなく医学生としての責任感や使命感がより一層強くなる実習です。

勉学に主軸を置きながらも、多くの学生は課外活動にも力を注いでいます。日々の座学だけでなく人との繋がりを大切にし、コミュニケーション能力を養うことが人間性溢れる医療人となる第一段階なのではないかと感じます。2年生は知識においても人との関わり方においても、医療人としてのまさに土台づくりの期間であると思います。

バスケットボール部

医学部2年生　萩原 睦

NSW大学選択制臨床実習

指導医の先生と班のメンバー

この度、 Sydney Children's Hospitalへの留学の機会を頂戴し、小児科の救急部にて実習させて頂きました。 指導医の先生方には、正しく迅速な診断のための考え方を沢山教えて頂きました。それをもとに学生同士で話し合うことで、疾患についての理解が深まりました。子どもたちに楽しく診察に協力してもらう事が大切だという事も学びました。

また、以前から興味を持っていた、Children's Cancer Instituteも見学しました。国内の病院からサンプルを集め、研究所での結果をフィードバックしているとの事で、研究と臨床の連携を感じ取ることができました。

学んだ事を活かせるよう、今後も努力を重ねたいと存じます。貴重な機会を頂き、心より御礼申し上げます。

医学部6年生　坪田 真実

ハルリム大学留学中

研究室の教授、メンバーと韓国料理屋にて

こんにちは、韓国にあるハルリム大学交換留学に参加させていただいているM3神谷昌宏です。

基礎自主研修では海外で研究をしたいと思い、ハルリム大学を選びました。アルツハイマー病やプリオン病に関するたんぱく質の研究を行っています。ウエスタンブロットやFACSなど基本的な実験の手技からどのようなたんぱく質がどんな機能をするかまでわかりやすく教えていただいています。実験の待ち時間には現地メンバーの方々と言葉を教え合ったりして過ごしています。日常生活では名古屋に比べて気温が低く、また、辛い食事が多く慣れない面もありますが、文化の違いや習慣の違いなど新しく発見することばかりで楽しく生活しています。

医学部3年生　神谷 昌宏

04 お知らせ Information

西野仁雄名誉教授が瑞宝中綬章を受賞されました

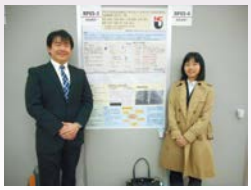
西野仁雄名誉教授

元名古屋市立大学長の西野仁雄先生（前脳神経生理学教授、現名誉教授）が、平成28年11月3日に発表された秋の叙勲で、瑞宝中綬章を受章されました。西野先生の長年の研究・教育に対するご功績に対するものです。去る平成28年11月11日に勲章ならびに勲記を授与され拝謁が行われました。11日の式では、受章者を代表し叙勲を受けご挨拶を述べられたとのことです。

生理学教室の教授としての厳しくも温かい御指導、法人化後の初代学長／理事長としてのご苦労が認められ、弟子一同もとても慶んでおります。西野先生の現職時代にお世話になりました先生方、また受章にあたりご尽力頂きました関係の皆様に対し、この場をお借りし深く御礼申し上げます。

脳神経生理学分野　教授　飛田 秀樹

医学部6年生　第44回日本救急医学会総会・学術集会にて発表


ポスター発表

口演発表

私たちは、この度11月に開催されました第44回日本救急医学会総会・学術集会においてポスター及び口演発表をする機会をいただきました。

口演では学生サークルMeLSCの活動内容について一般市民への一次救命処置普及活動を中心に発表し、ポスターではマラソン中に発症した心肺停止に対する救命の連鎖について発表して、救急医学会の優秀演題賞を頂きました。

学生で学会に参加することに、当初は高いハードルを感じておりました。けれども全国の先生方の様々な発表を聞き、その興味深い内容に刺激を受け、今後に向けてより一層勉強に精進したいと思いました。今回の学会発表に際して、ご指導いただいた松嶋先生はじめ救急部の先生方、誠にありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。

医学部6年生　桜井 勇明・鳥居 祐里

医学教育等関係業務功労者表彰

表彰式にて

副賞銀杯

私は医学部に採用されて以来、これまで教育・研究・診療の各種補助業務に従事してきました。多様な研究補助の内容・成果は省きますが、診断や治療法の精度を上げ、術式の進歩を促す病理解剖介助と医師養成課程に必須な献体の管理は各1000件を超えました。今回の表彰は多くの先生方のご指導と先輩方のご支援の賜物であります。今回の受賞を機にさらなる自己研鑽に励む所存であります。文部科学大臣より表彰状と副賞として五七の桐紋の銀杯を拝受いたしました。

統合解剖学分野　加藤 博之

ひとこと☆メッセージ募集！

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に‥ワイワイ楽しいお便りお待ちしています。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。（注:次回掲載は9月号です）

1.一言メッセージ（30字以内）2.卒業年度 3.お名前（ふりがな）＊匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。＊4.住所　5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1　E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
名古屋市立大学医学部広報誌『一言メッセージ』係宛

＊お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません＊

広報誌：瑞 医（ずいい）
発　行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL（052）853-8077 FAX（052）842-0863

URL http://www.nagoya-cu.ac.jp/

※次号の発行は平成29年5月下旬発行予定です。［年3回　1月・5月・9月］

我こそは通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けしてくださるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
または医学部事務室　広報担当まで

このリーフレットは再生紙（古紙100%）を使用しています。